

学校運営協議会（第3回）議事録

校長	府立泉北高等支援学校
校長名	池田 かおり

開催日時	令和7年1月31日（金）13:30~15:00
開催場所	大阪府立泉北高等支援学校 応接室
出席者（委員）	中島 康明（会長） 前田 光一（副会長） 魚住 敦子（委員） 樋上 真一（委員） * 徳委員、勝部委員は欠席。協議事項については事前に意見集約済み。
出席者（学校）	池田 かおり（校長）岡崎 美保子（教頭）宮園 奈穂美（事務長） 米田 拓郎（首席）前田 映三子（首席）百田 千代（部主事） 上野 浩嗣（教務主任）緒方 美香（研究支援部長）松本 竜也（進路指導部副主事）
傍聴者	なし
協議資料	委員会名簿 次第 令和6年度学校経営計画及び学校評価 令和6年度学校教育自己診断集計結果【教職員・保護者・生徒】 令和7年度学校経営計画及び学校評価（案） 第26回作品展&作品展バザーのパンフレット
備考	

議題等
(1) 諸連絡（配付物の確認、次第の確認、傍聴者の確認、意見箱について） (2) 学校長挨拶 (3) 会長挨拶 (4) 今年度の学校教育自己診断集計結果について (5) 今年度の学校経営計画の総括と今後の課題について (6) 令和7年度学校経営計画について (7) 質疑応答・意見交換 (8) 会長まとめ (9) 今後の学校運営協議会予定について (10) 作品展の見学
協議内容・承認事項（説明・意見の概要）
(1) 諸連絡 ・ 配付物の確認 ※協議資料参考 ・ 次第の確認 ・ 傍聴者の確認→ 傍聴者なし ・ 意見箱について→ 投書なし (2) 学校長挨拶

(3) 会長挨拶

(4) 今年度の学校教育自己診断集計結果について

資料「令和 6 年度学校教育自己診断集計結果【教職員・保護者・生徒】」を基に、教頭より説明。

(5) 今年度の学校経営計画の総括と今後の課題について

資料「令和 6 年度学校経営計画及び学校評価」を基に学校長より説明。承認された。

(6) 令和 7 年度学校経営計画について

資料「令和 7 年度学校経営計画及び学校評価（案）」を基に学校長より説明。協議の結果、次年度の「めざす学校像」と「中期的目標」、「本年度の取組内容及び自己評価」について承認が得られた。

(7) 質疑応答・意見交換

令和 6 年度学校教育自己診断集計結果【教職員対象】について

経験が少ない教職員の育成の体制について

- ・ 事案もあったので高い意識を持てるような研修をしたほうがよい。性暴力の根絶と目標の中に入れていることが大切である。「性に関すること」個人の価値観や感覚が反映されやすいところなので、WG に専門家を入れて、知識として持つことが大切。校内 WG には専門家が入っているのか。
- ・ 専門性を今年度伸ばしていくかなど分野（ICT や人権）を決めて行っは。研修にあてることができる時間も限られているので、先生方が納得感のあるような仕掛けをしていく工夫が必要
- 同僚性の中で様々な自分の困り感や自分たちの実践についての意見を互いに風通し良く出していく風土が作られることが大切と考えている。経験の少ないものも、ベテランと呼ばれる経験の長いものも、互いに自分たちの実践や気づきについて意見交換できるような小規模な会議を継続してできたらと考えている。少なくとも 3 回は性にかかわる研修を組み立て、専門家を交えて研修する予定。

各教科の備品や教材教具の適切な配置と活用について

- ・ 総予算がきちんと執行され、その成果は何かというところを可視化して、みんなが納得感あるようにしていく必要がある。
- 予算委員会を設けて各部署からの希望を取りまとめ、優先順位を決めて予算立てをしている。予算立てするのは当該年度であるため、年度末に次年度の計画にのっとって予算立てをするようにする。

令和 6 年度学校教育自己診断集計結果【生徒】について

- ・ 泉北レモンや地域との関わりを多くもつ機会を設けている。次年度も取り組んでいただきたい。

- ・「自分で発表したりすることがある。」項目について、次年度以降、生徒が発表できたという実感をもてる機会を作っていくとよい。また、交流活動への参加や係活動を楽しむことについて肯定的な意見が低いので、交流活動等を通して、発表や役割がある機会を設けてはどうか。

令和 6 年度学校教育自己診断集計結果【生徒】について

- ・学校で授業参観への参加やホームページ、マチコミをよく見るという能動的な参加を求めているところについては課題である。学校の取り組みについての配信や、子どもたちの様子を伝える方法を工夫していく必要がある。

(8) 会長まとめ

- ・今回の事案を受けて、今後の取り組みとして、再発防止だけではなく性犯罪の加害者にも被害者にもならない「性教育」がしっかりと充実することが求められていると考える。
- ・子どもたちが性被害にあわないために、先生方の同僚性やヒヤリハットも含め連携する。教科としての性教育だけでなく、保護者と連携し、学校や家庭など日常での関わりの中で、お互いの人権を尊重しあう言葉がけや取り組むことが必要であると考えます。
- ・高等部段階における性教育はキャリア教育が根底にある。人生設計をし、適切な行動を身に付ける教育活動を展開していくことが必要である。

(9) 今後の学校運営協議会予定について

- ・次回学校運営協議会が来年度の 7 月、10 月、1 月を予定。
- ・時間は 13：30～15：00
- ・来年度委員を依頼する方については、後日連絡の上ご都合を聞く。

(10) 作品展の見学